



月刊税理士事務所チャンネル CHANNEL

2018
1
No.437

ミロク会計人会 INFORMATION

「第42回全国統一研修会 新潟大会」開催報告 6

ミロク会計人会連合会

役員 年頭挨拶 2

ミロク情報サービス代表取締役社長

是枝 周樹 年頭挨拶 5

ミロクシステムQ&A

『ACELINK NX-Pro 年末調整(よくあるお問い合わせ)』..... 16

今月の表紙:伊豆で最古の白浜神社の鳥居と初日
場所:静岡県下田市

日本の未来一
企業を支える



ミロク会計人会

2018 初春

ミロク会計人会役員

新年の挨拶



ミロク会計人会連合会
会長 金子 秀夫

皆様、新年おめでとうございます。平成として最後の一年となります。ひとしおの感慨と大きな希望を持って迎えたいと存じます。

昨年はMJSが創立40周年の節目を迎え、内外にその存在をアピールした年でありました。わがミロク会計人会は、この株式会社創立に先立つ42年の歴史を刻み、同社の発展と歩を一にして、全国の職業会計人の拠点として存在してまいりました。

この間、常に中小企業に寄り添い、現場の声に耳を傾け、そのニーズに的確に対応してきたことを、私たちは改めて誇りとすると所です。

昨秋は新潟において、第42回全国統一研修会を開催しましたが、関東信越ミロク会計人会の皆様のご協力と全国のミロク会計人会のご協力で、10000

人規模の大会として成功を収めることができました。大好評だった浅田次郎先生のご講演、三人の分科会講師の各先生のお話を糧として、今後ともミロク

会計人として頑張つてまいりたいと存じます。大会を支え、ご協力を賜った皆様に心より御礼を申し上げますとともに、今年には南国沖縄が大会の場となります。引き続き会員各位のご協力、ご参加をお願い致します。

さて、世はAIやロボットの導入に向けてひた走りの状況ですが、私たちミロク会計人は、足元の中小企業経営者に寄り添い、その権利利権をしっかりと守っていくという原点に立って、テクノロジーの進展にも対応しつつ、今年も業務に邁進いたしましょう。

皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。



北海道会会長
中原 章博

明けましておめでとうございませう。皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

北海道会は、広く多くの会員からご要望・ご意見を賜り、MJSと課題を共有し、システムの改善、開発、サービスの向上改善に対処することにより会員の満足度を高めようと、事業計画の重点施策のトップに、最も身近で情報収集しやすい地区会の活動活性化事業を掲げています。

昨年はまず、地区会別にMJSシステムの導入率を調べました。その結果、システムによつては導入率に極端な差があることが分かりました。この結果を参考に、各地区会のシステム研修のテーマを決定します。さらには、各地区会の行事に北海道会各委員長との意見交換の場を設けていただく施策がスタートしました。北海道会は、システムフル活用事務所の拡大・さらなる会員拡大を目指し、諸施策を推進します。会員の皆様にはぜひとも積極的なご参加をお願い申し上げます。

新たな年が皆様にとりまして良き一年でありますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



東北会会長
福嶋 朗

明けましておめでとうございませう。ミロク会計人会会員の皆様にはますますご清栄のことと思います。

今日的・全国的課題であります人手不足に対応すべく、我々の仕事はより一層の効率化を図っていかねばなりません。そのためにはMJS様の省力化に資するソフト開発を願うのもちろんのこと、会計事務所および顧問先様が一体となった業務の見直しが必要になります。そこでまず大きな時間を費やしていると思われる仕訳入力業務を例にとれば、MJS様にご用意いただいている各種メニューを徹底して関連付けながら活用する他ありませんし、会計事務所内のまさに「働き方改革」を十分に考慮し、その実現を目指すことが大事となります。

また、ひたひたと迫り来る消費税増税に向けて、顧問先様への適切な納税指導が求められます。そのためには日頃より損益管理のみならず、資金繰り管理にも厳密に踏み込んで、滞納などを生じさせないよう、努力しなければなりません。

かように顧問先様との密着度をますます深めつつ邁進してまいります所存です。



関東信越会会長
増田 正廣

新年おめでとうございませう。

昨年の11月に開催されました第42回全国統一研修会・新潟大会におきましては、全国の皆様に多数ご参加いただきありがとうございました。皆様方におかれましては、初めてまたは久しぶりの新潟をお楽しみいただけたかと思ひます。今年は沖縄大会。風土の異なつた地での参加、いろいろとお世話になりますがよろしくお願ひ致します。

さて、今年は生産年齢人口が減少し各企業で人手不足が一層叫ばれる中、あらゆるモノがインターネットにつながる「IoT」や人工知能「AI」を利用したIT革命が加速される第4次産業革命に拍車がかかりそうです。税を取り巻く環境も人ごとではありません。我々税理士などの士業もこの体制での将来が危惧される職業として、英オックスフォード大学による論文(2013年)や各研究機関などでも上位に位置づけられました。この先5〜10年で変化しない業界など存在しない中、MJS様の進化するテクノロジーを活用させていただき、より価値のある経営判断の分野に集中できるサービス(経営コンサルティング)を支えるために、会員の積極的な会への参画をお願い致します。本年もよろしくお願ひ申し上げます。



東京会会長
馬場 英晶

新年明けましておめでとうござ
います。全国のミロク会計人会
員の皆様におかれましては、お健
やかに新年をお迎えのこととお慶
び申し上げます。

昨年11月9日、第42回全国統一
研修会新潟大会は、例年通り全国
より多数の方々に来訪をいただき、
盛大に無事に開催ができて喜ばしい
ことでした。

さて、世界情勢を見ると、核の
開発国によって、今後は非常に大
きな影響が軍事面、経済面に表れ
てくるのではないでしょうか。私
たちは、この変化を注意深く見て
特に経済面への変化をとらえ、顧
問先の経営面に表れる影響にいち
早く気づき、対応策をアドバイス
していくことが非常に重要になっ
てきます。

今後のミロク会計人会のさらな
る発展のためには、限なく会員間
の意見を聞き、それをシステム開
発に取り入れていくことが、非常
に大切なことではないでしょうか。
私たちユーザーは、MJSと一体に
なって、今後もさらに活躍してい
きたいと思っています。

本年もどうぞよろしくお願い申
し上げます。



北陸会会長
常山 明夫

平成30年の年頭にあたり、皆様
方にはお健やかに新春をお迎えの
こととお慶び申し上げます。

さて昨今の経済情勢は、東京一
極集中に拍車がかかり、日経平均
株価が2万円を超え大企業は大幅
増益が見られる一方、顧客の大半
を中小企業が占める北陸地区では、
高齢化・人手不足が続く、物価が
上昇せずデフレ脱却ができない厳
しい状況です。我々はそんな企業
に対し、良きサポーター役として責
務を果たす必要があると思います。

近い将来にはAIの能力が人間
の能力を超え、税理士の必要性自
体が危ぶまれている今、AIだけ
がフォーカスされ物事の一面しか
捉えられていない現状を、私は正
しいとは思いません。今後、ミロ
ク会計人会を通して会員連携の上
システムの開発・改善・サービス
の向上の強化こそが顧客のサポー
トに繋がると考えております。

これからのミロク会計人会の飛
躍と皆様方のご多幸をご祈念申し
上げて、新年の挨拶とさせていただきます。



中部会会長
石川 光男

新年明けましておめでとうござい
ます。さて、最近でも大きなニュースが飛
び込んできています。

上場企業の一部ではありますが、コ
ンプライアンス違反、昨年10月末の突然
の衆議院議員総選挙、バブル以後のダ
ウ平均株価の最高値更新など私ども
会計業界に大きな影響のあることが
ありました。税理士公認会計士試
験受験者が激減し、マスコミによれば
AI・IoTで会計担当者半減す
るとも言われています。少子高齢で
人口減少企業数の減少など「縮ま
り社会」という未体験時代への突入で
す。今こそ、税務を含めた提案能力
が会計人に求められます。自分一人
で努力を重ねるだけでなく、MJSと
いう財務基盤構築システムを活用す
る同士であるからこそ、寄り合い、切
磋琢磨していく中で達成されます。

MJSユーザーの大多数が会員と
なり、緊張感の中で相集い交流を深
め相乗効果を出しましょう。
研修を質量ともにさらに充実させ
実力を高めていきましょう。中部会
は500会員を突破します。私の任
期最後の仕事でもあります。

本年、皆様方とともに積極的な活
動を誓い、健康を祈念し、新年の挨
拶と致します。



近畿会会長
植田 卓

平成30年を迎え新春のお慶びを
申し上げます。

平成30年度の税制改正では、基
礎控除、給与所得控除、公的年金
控除制度などの、所得税制の基本
的な部分が改正される予定です。

この中でもっとも注目すべきは、
基礎控除が高所得者に適用されな
くなるという点です。

昨年度の改正では、配偶者
控除について、本人の所得が
1000万円を超える場合には適
用されなくなっています。

本来、基礎控除、配偶者控除、
扶養控除は、基礎的人的控除とい
われ、課税最低限を実現するため
に必要な不可欠なものであり、誰に
でも当然に適用されるものとして
位置づけられていましたが、この
考え方が、根底から見直されたとい
うことを意味します。

今、税制の常識は、徐々に抜本
的に変わりつつあります。税務の
専門家である税理士として、この
ような変化の根底にある部分を注
視していく必要があると思います。
本年もどうぞよろしくお願い申
しあげます。



中国会会長
吉井 利幸

昨年一年もさまざまなことが起
こりました。次々にいろんなこと
が起きるので、以前のこととはどん
どん上書きされて重要なことすら
忘却してしまう時代のような気が
します。

振り返りますと、1月は米国で
トランプ首相が就任、2月は金正
男殺害事件、5月はフランスでマ
クロン大統領、韓国で文在寅大統
領が就任、9月はドイツのメルケ
ル首相就任、広島カーブがセ・リ
ーグ優勝、10月は衆議院議員総選
挙にて自民党圧勝、と数多くの出
来事があり、国内外ともに政治が
大きく動いた年でもありました。

我々はこのような時代にあつて
も中小零細企業およびその経営者
の良きサポーター役として責務を果
たしていかなければなりません。
これからのキーワードは「システ
ム」と「我々の団結」だと思つて
います。会員の皆様と協力、情報
交換をし、次世代に備えていき
たいと考えております。今年も良
い年になりますようご祈念申し上げ
まして、新年のご挨拶とさせていただきます。



四国会会長
木村 幸博

明けましておめでとうございます。先日新潟にて第42回全国統一研修会が盛大に開催され、その前回の四国大会から1年という月日の経つ早さに驚きました。

私は、一昨年5月、米国ロサンゼルスでの3つの会計事務所を訪問し、会計業界の状況を見聞してまいりました。アメリカには税理士制度がありませんので、税務申告を独占する業界はありません。しかし、税法の難解さはアメリカでも同じ。そこで正確さ、信頼度の高い公認会計士が選任されているようです。とはいえ、専門知識に長け、全米で展開している業者もあり、その存在は脅威のようです。その業者は日本では、大手簿記学校が少数の税理士を雇い、税務申告を全国展開しているようなもの。が、そんな過当競争を勝ち抜く要素は、税務知識もさることながら、それを伝えるコンサルティング能力、コミュニケーション能力が必須であるとの説明を受け、私もそのことを痛感した次第です。過去に会計に止まることなく未来会計にシフトし、正確に伝える能力の養成が必須の課題だと思っています。M-JSのソフトを使いこなしていただきたいと思っています。



九州会会長
大久保 昌逸

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年のこの業界は「フィンテック」と「AI」という単語に明け暮れた感があります。私たちに与ってコンピュータやアプリケーションの進歩とは、仕事を奪うものではなく、私たちが使う道具が優秀になるということではないでしょうか。その意味でもこれから私たちミロク会計人は、M-JSと協調して新しい技術を駆使し、顧問先企業のニーズに合った的確な情報を提供し、経営のパートナーとしての関係を維持していくことが大切だと思います。

さて、本年は戌年であります。「戌」とは「作物を刃物で刈り取りひとまとめに締めくくること」あるいは「植物が実を落として枯れた状態」を表しているそうです。私は今年と来年は、また新たに芽を出すための準備の時期と解釈しております。最後になりましたが、この新しい年が全国各地の会員の皆様にとりましてすばらしい年となりますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



沖縄会会長
波平 正

明けましておめでとうございます。ミロク会計人会の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。新年度も全会員事務所がM-JSのシステムを利用することにより、関与先企業の繁栄に大いに貢献されますことを祈念致します。

本年度の税制改正は所得税改革が大きな話題になっており、いわゆる高所得者、特に高給与収入および高年金収入者への高額控除あるいは二重控除の調整が注目されています。平成31年度の消費税率引き上げを控えて景気向上経済政策を盛り込んだ税制改正が期待され、その上で増、減税バランスが注目されます。

さて、昨年11月の第42回全国統一研修会新潟大会の成功を受けて、本年は第43回大会が沖縄で開催されます。基調講演をはじめ各分科会、その後の記念旅行、ゴルフ大会と皆様のご期待に応えられるよう取り組んでいるところでございます。多くの皆様にご参加いただき、沖縄の歴史、食文化に接していただければ幸いです。お待ちしております。



連合会監事
林 伸三郎

新年おめでとうございます。昨年この欄の年頭、挨拶で、「会務監査に軸足を置き、魅力ある会計人を目指し、監事として有効な提言ができれば」と記させていただきました。

連合会の目的は、各単位の意見統一を図りM-JSとの連絡調整を行う機関としての機能を果たすことにある。それゆえ、この目的に沿った会員のための諸施策（業務改善・職域拡大）を策定する責務があります。

基本となる活動方針は会員のための施策を明確に掲げ、その目的達成のために各委員会と理事会・正副会長会との調整のもとに、具体的な活動方針を決定するものでなければなりません。

昨年は会計処理・会務執行に関して指摘事項（5項目の意見書）を纏めました。些細な事項を含めその内容は、会計および会務執行の明瞭性と透明性を求めたもので会務運営に有効であると考えております。今後も「会員のための会務」を意識して監事役を務めてまいります。

本年もどうぞよろしく願います。



連合会監事
武安 紘二

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様方には穏やかに新年をお迎えになられたことと心からお慶び申し上げます。

昨年から私どもが関わる中小企業の事業承継問題がクローズアップされ、数ある選択肢の中からそれぞれが実情と見合う形で承継に取り組む作業が多くなってきました。しかしその中で、法的規制が厳しいためスムーズに移行できないケースもあります。中小企業はこれからも日本経済の底辺をしっかりと支える役割を担っており、円滑な事業承継には大胆で思い切りのある規制緩和が望まれます。

昨年の全国統一研修会では、30年ぶりに新潟を訪問させていただきました。基調講演の浅田次郎先生、私の出席した第一分科会の中里実先生、お二人とも辛辣で示唆に富んだ講演で、記憶に残るお話でした。また懇親会の「おもてなし」も心に響きました。

ところで、昨年は広島東洋カープがセ・リーグを連覇しながら日本シリーズ進出は果たせませんでした。今年こそは広島カープの日本一を祈念して！本年もどうぞよろしく願います。

謹んで新年のご挨拶を申しあげます。

時代の変化の波へ適応

昨年来、国内経済は緩やかな回復基調にあります。2017年度の中間決算において多くの企業が過去最高の業績を発表し、また、年末にかけて日経平均株価がバブル崩壊後の最高値となるなど、経済が好循環に入っていると感じさせる数値が目につきました。一方で、インターネットやクラウドの活用による流通・金融など生活に身近なサービスの急速な変化や慢性化しつつある人手不足、さらに国外に目を向ければ、東アジアの地政学的リスクの高まりや米国中心の国際秩序の変化など、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。その変化の波に飲まれず、柔軟に適応しつつ自らも変化していくことが、企業や個人に強く求められる時代だと感じています。

技術革新の波への適応

中小企業経営においても、変革の波が押し寄せています。一つは、AI(人工知能)に代表される技術革新の波です。AIの進化は、さまざまな知的労働を代替する脅威とも捉えられています。これまでない飛躍的な生産性の向上をもたらすツールとしても期待されています。

当社は、クラウド、FinTech(フィンテック)、さらにはAIの活用により、会計事務所の先生方が、より高度なサービスを顧問先企業に提供できるよう、積極的に取り組んでまいります。

事業承継の積極的支援

もう一つの波として、少子高齢化の進展があります。国内の中小企業経営者が高齢化する中、後継者難により貴重な技術や経験を伝承できずに社業の幕を下ろす企業があることは、大変残念なことです。我が国経済の発展には、活力ある中小企業の果敢なビジネスへの挑戦が不可欠です。当社子会社MJS M&Aパートナーズでは、このような事業承継を支援するため、各地の会計事務所とのパートナー契約を推進しており、その数は昨年3000事務所を超えました。全国の地域金融機関との提携も進め、各地で事業承継セミナーを開催しています。会計事務所の先生方とともに、顧問先企業の立場に立った事業承継を、積極的に支援しています。

金融機関との連携推進

さらに昨年は、当社製品における金融サービスの開発および地域金融機関とのさらなる連携強化を目指し、新



株式会社ミロク情報サービス
代表取締役社長
最高経営責任者
是枝 周樹

生銀行と業務提携いたしました。金融機関との連携によるFinTech分野のサービス拡充に加え、新生銀行を通じて地方銀行との協業を進展させ、事業承継支援、さらには業務の効率化や資金繰りなど、中小企業の経営課題を、会計事務所の先生方とともに解決していきたいと考えています。

当社は昨年11月に設立40周年を迎えました。決して平坦ではなかった歩みの中、今日まで社業を進展させることができたのは、ひとえにミロク会計人会の先生方のご支援の賜物と心より感謝しております。改めて、御礼申し上げます。これからも先生方とのパートナーシップをさらに強固なものとし、会計事務所が時代のニーズを捉えた最適・最善なサービスを顧問先に提供し続けられるよう、積極的に努めてまいります。先生方におかれましても、当社への引き続きのご指導、ご鞭撻を賜れば幸いです。

最後に、諸先生、職員の皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

平成29年11月9日(木)

「第42回全国統一研修会 新潟大会」開催報告

「朱鷺めき、熱い心で感動を」をテーマに開催され、988名が新潟に集結!!

11月9日(木)、新潟県新潟市の「ANAクラウンプラザホテル新潟」にて、ミロク会計人会連合会主催の「全国統一研修会 新潟大会」(開催担当会:関東信越ミロク会計人会)が、988名の参加を得て盛大に開催されました。



式典風景

式典は、午後1時45分から牧内秀幸大会実行委員とアナウンサーでアシスタントの三石佳那氏の司会の下、今井彰大会実行委員長の挨拶により開会。

金子秀夫ミロク会計人会連合会会長による大会開催のご挨拶の後、麻生太郎財務大臣からの祝辞を常山明夫副会長が代読披露。その後、来賓の吾郷進平中小企業庁事業環境部長および日本英仁関東信越税理士会会長からご祝辞をいただきました。

単位会表彰では、昨年の「第41回全国統一研修会 四国大会 in 松山」を担当された四国ミロク会計人会を代表し、木村幸博四国会会長が表彰を受けられました。功労者表彰では、このたび任期を終えられた沖繩会の

高良正一前会長が表彰されました。

そして、協賛会社であるミロク情報サービスの是枝伸彦代表取締役会長の挨拶の後、祝電が披露され、吉田起男大会実行副委員長の閉会の言葉で式典は終了となりました。

引き続き午後2時30分から行われた基調講演は、畔上洋関東信越会副会長の開会の言葉でスタート。作家の浅田次郎氏により、「お米の経済学」と題してご講演いただき、山田祐司大会実行副委員長の謝辞と閉会の言葉で幕を閉じました。

第1分科会は、東京大学大学院法学政治学研究科・法学部教授で政府税制調査会会長でもある中里実氏を招き、「中間

層の本音とどう向き合うか」をテーマにお話いただきました。司会を立岡幸江大会実行委員が務め、開会の言葉を山口博幸大会実行副委員長が、謝辞を井上泰一大会実行委員が、閉会の言葉を田村栄大会実行委員がそれぞれ述べられました。

第2分科会は、石本酒造(株)取締役・杜氏の竹内伸一氏に、『越乃寒梅「伝統の継承」「挑戦」「おもてなし」』と題して講演をいただきました。司会では松井則幸大会実行委員が務め、田中正夫大会実行副委員長が開会の言葉を、柳田廣隆大会実行副委員長が謝辞を、阿部明大会実行委員が閉会の言葉を述べられました。

第3分科会は、(株)新潟放送代表取締役会長の竹石松次氏を講師に招き、「新潟から世界を拓く」前島密・大倉喜八郎・南場智子氏」をテーマにお話いただきました。司会を三石佳那氏が務め、開会の言葉を富樫 寛大会実行委員が述べ、五十島 浩行大会実行委員による謝辞と閉会の言葉で終了しました。



壇上の連合会役員



(左から) 司会の牧内 秀幸大会実行委員とアシスタントの三石 佳那氏



開会の挨拶致される今井 彰大会実行委員長



閉会の挨拶を述べる吉田 起男大会実行副委員長



功労者表彰を受ける高良 正一沖繩会前会長



単位会の表彰を受ける木村 幸博四国分会会長



ご来賓席と協賛会社席

ご祝辞

財務大臣 麻生 太郎 様
代読 常山 明夫 連合会副会長



本日、ミロク会計人会連合会主催による第42回全国統一研修会が、新潟県新潟市において盛大に開催されるにあたり、心からお祝いを申し上げます。

私はよく「経済の繁栄と民主主義を通して、平和と幸福を」という表現を使いますが、皆様方が、日頃より、納税の基礎となる記帳や会計処理をはじめ、商取引の面においても指導的な役割を果たすことで、まさにこの「経済の繁栄」の実現に寄与しておられることに対して、敬意と感謝の意を表します。

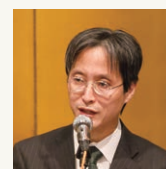
日本経済はアベノミクスの取組により、足もとで国民総生産、企業収益が過去最高の水準に達しております。更に、雇用・所得環境につきましても大きく改善しており、全国で経済の好循環が着実に回り始めております。このような経済の好循環を二時的なものに終わらせることなく、引き続き、経済再生と財政健全化の両立を目指してまいります。

最近の税務行政について申し上げますと、社会経済の環境が変化する中、消費税率の引上げやマイナンバー制度の定着など、制度改正に適切に対応しつつ、適正・公平な課税の実現と期限内納付の推進を図ることにより、国民からの信頼に応えていくことが重要と考えております。皆様方には、税務行政に対するなお一層の御理解と御協力を賜りますようお願いいたしますとともに、中小企業者を含めた納税者の最も身近で信頼できる相談相手・専門家として一層指導・助言を賜りますようお願い致します。

最後に、貴連合会の益々のご発展と、御参会の皆様方の御健勝をお祈り申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

ご祝辞

中小企業庁 事業環境部長
吾郷 進平 様



本日はお招きを賜り誠にありがとうございます。本日出席の皆様方には日頃より中小企業政策にご理解・協力をいただいておりますこと、そして地域経済の中核となる中小企業・小規模事業者への支援を通じて、日本経済に大変大きな貢献をいただいておりますことに、改めて感謝と敬意を表します。私どもがさらなる中小企業政策の充実に取り組む中で、昨今の大きなテーマが2つあると考えます。

第1の課題は事業承継の問題です。今後10年間に中小企業の経営者の平均年齢が70歳に到達しますが、その平均を超える経営者約245万人の半数がまだ後継者が決まっていないという推計があります。この状況を踏まえ、私どもは今後10年間を事業承継の集中対策期間と位置づけ、事業承継税制の抜本拡充、あるいは後継者のマッチング業務などに取り組みたいと考えております。

2つ目の課題が労働生産性の向上です。好景気と少子高齢化により、昨今人手不足が続いております。政府では「働き方改革」という取り組みをしており、この働き方改革と生産性の向上を同時に成立させる、生産性の高い、付加価値のある中小企業、小規模事業者に変貌していくことが非常に重要です。その支援にも重点的に取り組んでいく所存です。

こうした課題には税理士の皆様のご協力が不可欠であります。しっかりと連携をとらせていただいき、一緒に中小企業、小規模事業者を支えていただければと考えております。結びに、ミロク会計人会として本日出席の皆様のご発展を祈念しまして、私のご挨拶とさせていただきます。

ご祝辞

関東信越税理士会会長

江本 英仁 様



本日は統一研修会がこのように盛大に開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。全国からようこそ新潟にお越しくださいました。本日まで参加いただいた先生方の中には、税理士会の会務事業を中心に活動されていらっしゃる方も多いかと思ひます。税理士会の会務運営に、ご支援ご協力をいただいておりますこと、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

さて、我が国の景気は穏やかな拡大傾向を見せていますが、地域経済はいまだ十分な回復を果たしているとは言えず、我々税理士の関与先である中小企業にとっては依然として厳しい経営環境にあります。このような中で我々税理士は、国民、納税者の信頼に応える税理士制度を確立するため、必要な施策を講じていかなければならないと考えます。本日まで参加いただいた先生方は、信頼される税理士制度の確立を目指しながら、中小企業の身近な相談相手として日々研鑽を積み、中小企業の経営の質向上に向けた支援、あるいは中小企業の経営環境の改善に向けた支援、あるいは中小企業の金融支援などさまざまな施策に取り組んでおられ、地域社会ひいては日本の景気回復に貢献なされていることと思ひます。

新潟はお米にお酒に、美味しいものが揃っている場所です。ぜひ、新潟県をご堪能ください。結びに、貴会のおますますのご発展と、本日まで参加の皆様のご健康、ご多幸を心からご祈念申し上げます。祝辞とさせていただきます。

ご挨拶

ミロク会計人会連合会会長

金子 秀夫



本日の第42回全国統一研修会 新潟大会にお集まりいただきました多くの皆様に、心から感謝を申し上げます。また、開催にあたってご尽力いただいた関東信越会の皆様、そしてそれを支えてくださった多くのMJSの皆様にも感謝致します。

さて、我が会は全国に400万社あると言われる企業の中で多くを占める中小企業にしっかりと密着し、その事業を発展させるための職業会計人の集団です。まさにこの中小企業が発展しなければ日本の経済は発展しないということで、先生方も中小企業に寄り添い日夜努力をされているところですが、他方、大変厳しい時代でもございます。しかし私たちが胸を張って言えるのは、ミロク会計人として明確な理念を掲げ、中小企業者と足並みを揃え、寄り添って、経営の安定に努めているということです。そして、MJSからは中小企業に適合したソフトやハードを提供していただいています。私たちにはこの強い武器がある。この強い武器を利用しながら多くの方にスキルを提供し続けている、素晴らしい会員が我が会には多数所属していると自負しています。それゆえ、なお一層、本会の活動にご協力を賜り組織の充実を企りたいと思ひます。

本日の和やかな雰囲気の中で、互いに研鑽し、新しい見識を学びながら大いなる英気を養ってください。統一研修会は、来年が沖繩、再来年は北海道と続いています。皆様方と毎年お会いできることを心から祈念申し上げ、第42回の統一研修会に寄せる言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

協賛会社挨拶

ミロク情報サービス代表取締役会長

是枝 伸彦



先生方には日頃よりMJSへのご指導ご鞭撻を賜り、誠にありがとうございます。第42回の統一研修会も多くの方にご参加いただき、無事に開催されましたこと大変嬉しく思います。

私どもMJSは、これから3年ほどの間でおそらくかなり大幅な製品・サービスの改善や改革を実施することになります。先生方もいろいろなところでお聞き及びかと思いますが、全てのものがインターネットに繋がる「IoT」や、「AI」などの言葉が注目を集めています。身近な例で申し上げますと、皆様がお持ちのスマートフォンがいろいろなものと一緒に、操作できるような端末になる、といった可能性が挙げられます。私は今年の6月まで情報通信産業の業界団体の会長をしておりましたが、この技術革新はものすごいスピードで進んでおります。今でも日本は技術レベルでは世界トップクラスだと思われていますが、分野によっては中国やその他のアジアの国々のほうが先を走っているのが現状です。

金融と先端技術を融合させた「フィンテック」という言葉が新聞等の報道でよく言われていますが、皆様のスマホが銀行口座と繋がり、例えば町の商店に行ったらスマホとスマホで決済を完了させ、キャッシュレスで支払いができ、そのデータが自動的に会計情報になっていく、といった世界がもうすぐそこまで来ています。それに対応すべく当社は今、相当な技術投資を行っています。少なくとも当社ユーザーの先生方が時代に乗り遅れることがないように、支援体制を整えています。今後ともMJSをどうぞよろしくお願い致します。



会場に響き渡る善光寺木遣りの力強い歌声



開会挨拶を述べる関東信越会の増田 正廣会長



懇親パーティーの司会を務めた小菅 洋司会員



趣深い古町芸妓の民謡踊り



歓迎の意を述べる篠田 昭新潟市長



来賓挨拶を述べる米山 隆一新潟県知事



圧倒的な迫力の新潟萬代太鼓



高野 裕新潟県支部連合会会長の乾杯のご発声で
懇親パーティーは開始



「越乃寒梅」で鏡開き



平野 利司大会実行委員(中央)
による閉会の挨拶



波平 正会長をはじめとする沖縄会の皆様がエ
イサーの衣装で次期大会への参加を呼びかけ



BSN愛の募金の贈呈セレモニー



新潟市の魅力を紹介するにいがた観光親善
大使

懇親パーティーは午後6時25分に、木材を曳き出す際の音頭やかけ声から生まれた、善光寺木遣りの力強い歌声で幕開けです。小菅 洋司会員の司会のもと進められ、まずは関東信越会の増田 正廣会長が開会の挨拶を述べられました。次に米山 隆一新潟県知事と篠田 昭新潟市長が来賓代表挨拶をされ、続いて舞台にて鏡開きが行われました。中のお酒は「越乃寒梅」、そのグラスを手に高野 裕新潟県支部連合会会長が乾杯のご発声をされました。

食事が始まると間もなく、古町芸妓による民謡踊りが披露されました。京都の祇園、東京の新橋と並び称される古町芸妓、ゆったりとした民謡踊りは観る者を魅了しました。

それからしばしの歓談の時間では、同じ単位会で親睦を深める人、他のテーブルに赴き他の単位会の方と旧交を温める人など、皆さん思い思いに楽しまれた様子でした。またこの間にいがた観光親善大使の女性二人が、地元新潟市の魅力をいろいろと紹介してくださいました。

2つ目のアトラクションでは、新潟萬代太鼓「飛龍會」により和太鼓が披露されました。新潟まつりに新たな和太鼓を取り入れることを目的に「飛龍會」は結成され、以来50年近くにわたる活動を続けています。迫力の太鼓の音とかけ声で会場を圧倒しました。

次に、BSN愛の募金※の贈呈セレモニーが行われました。募金箱は会場にも設置され、来場者、協賛会社、主催者からの募金を、ミロク会計人会連合会の金子会長が新潟放送の佐藤 隆夫社長に贈呈しました。

その後、ミロク情報サービスのは枝 伸彦代表取締役会長より挨拶がありました。続く次期大会へのお誘いでは、沖縄会の波平 正会長をはじめとする会員の皆様、沖縄の伝統芸能であるエイサーの衣装で壇上に上がり、沖縄で開催される第43回大会への参加を呼びかけました。そして、最後に平野 利司大会実行委員が関東信越会の皆様とともに閉会の挨拶をし、懇親パーティーは終了となりました。

お米の経済学

基調講演レポート

歴史小説をはじめ、多彩なジャンルの小説で人気を博し続けている浅田 次郎氏。今回は新潟にちなんで「お米」をテーマにした基調講演を行っていただきました。

講演者

浅田 次郎 氏

あさだ・じろう

小説家

1951年東京都生まれ。95年に『地下鉄に乗って』で第16回吉川英治文学新人賞、97年に『鉄道員』で第117回直木賞、2000年に『壬生義士伝』で第13回柴田錬三郎賞、06年に『お腹召しませ』で第1回中央公論文芸賞、第10回司馬遼太郎賞、08年に『中原の虹』で第42回吉川英治文学賞、10年に『終わらざる夏』で第64回毎日出版文化賞、17年に『帰郷』で第43回大佛次郎賞をそれぞれ受賞。多彩な作風で多くの読者を魅了し続けている。近著は『天子蒙塵』第1巻・第2巻（講談社）、『おもかげ』（毎日新聞出版）。



豊かな越後の国

新潟は時代小説を書く小説家にとって、取材の宝庫です。旧国名でいうところの越後の国はとても豊かな地域であり、江戸時代の人口は常に全国一位でした。

た。なぜなら、それだけ食料が豊富だったからです。世界的に見ても、人口は食料事情と密接に関係しており、越後の国はまさにそれを象徴していたのです。中国は現在世界で最も人口の多い国ですが、人口爆発が起

つたのは明らかに清王朝で隆盛を極めた乾隆帝の時代です。もともと中国は土地が豊かところで、食料が生産しやすい国ではあります。それでも飢饉や水害で、人口が増え続けるということはありませんでした。ところが、乾隆帝の時代に南米由来のもろこしが入ってきたことで、その環境が一変しました。とうもろこしは荒れ地に強く、多少雨が降らなくても大きな収穫が得られるからです。実際、世界中のあらゆる国で、とうもろこしが入ってきたことによって人口爆発が起きています。ところが日本は貧乏なことに、大昔からお米を食べています。越後の国も、お米で人口を確保しました。越後の国と一言でいっても、江戸時代にはその中に、たくさん小さな藩がありました。藩ごとに違った文化があり、しかも新潟の人は、それぞれの城下町や文化を非常によく保存しています。時代小説家にとって新潟が取材の宝庫であるとはそういうことなのです。今も私は村上（村上藩、現新潟県村上市）をモデルにした架空の城下

町の小説を文藝春秋に連載しています。ある小さな藩が大変な財政難にあえぐという話でタイトルは『大名倒産』。江戸時代というのは、経済をお米に頼っていたので、安定した自治体経営を行うのがかなり大変でした。今の常識で考えてみれば、こんな無茶な話はありません。例えば今みたいに天気予報があるわけでもないのに、経済のすべてをお米に依存していたわけですから、天候などによって簡単に経済が浮き沈みしていたのです。

お米は「ステータス」

大名の石高というのは、それ自体が大名の格でありステータスでもありました。大名のトツプである「加賀百万石」というのは、「百万石の米を収穫できる領地を持つお殿様」という意味です。一方で、一番下は一万石であり、一万石に満たなければ「大名」ではなく「旗本」という身分となり、旗本の下には御家人という身分がありました。ちなみに、幕臣や旗本、御家人、あるいは大名の家臣たちも、「何石取り」という呼ばれ方をし

ていました。現代に置き換えると「年収〇千万円の〇〇課長」と呼んでいるようなものなので滑稽ですが、そのくらいお米というものが生活の基準であったのです。

「貧富の差」と「長男相続」

私たちは弥生時代以降、2000年近くずっとお米を食べ続けてきました。そして、お米の伝来は社会経済にも決定的な影響を及ぼしました。

お米は、大量に生産しても蓄えることができます。その結果、「貯蓄」という概念が生まれ、そこから貧富といった概念も生じたのではないのでしょうか。それからもう一つ、これは私の持論ですが、長男相続が徹底して行われるようになったという点があります。なぜかというと、お米という作物だけを栽培するという形態の農耕においては、能力が優れている子どもにわざわざ家督を相続させる必要がなくなってきたからです。例えば中国の清王朝を築いた女真族は北方騎馬民族で、長男相続ではなく、後継者は父親が指名しま

す。世界中の狩猟民族、遊牧民族は、ほとんどがこの形態です。一族を率いて移動するわけですから、リーダーシップがある人間でないとまずいため、父親が「こいつが一番声もでかくて身体も強い」という後継者を選ぶわけです。確かにそうすれば、強い子どもが代々跡目を継ぐので1代が長く続くようになります。

対して長男相続の徳川家は、幼くして亡くなったり、身体が弱かったという将軍が多く、徳川幕府の270年間の歴史の間に将軍の数は15人にも上っていません。一方で清王朝は徳川幕府より50年長く続いているにもかかわらず、皇帝の数は12人に留まっています。これはやはり指名制度が機能した証といえるでしょう。

もちろん、長男相続にも利点があります。長男相続の場合、後継者の身体が弱くても、能力が劣っていても、長男相続と決めてしまえば家の中でゴタゴタが起こりにくいからです。そこに儒教思想を取り入れて、長幼の序というものをきちんとすれば、長男は尊敬され、うまく統

治することができるようになります。ともあれ、お米本位の経済は、そういった相続の形態にまで影響を及ぼしたと私は思っています。小説家が思っていることです。あくまで想像の範囲ではありませんが。

給料体系は江戸時代の名残

石高というのは、その大名の支配地域におけるお米の収穫量だというのは分かるかと思いますが、「給料としてのお米」とはどんなものなのか、いまいち想像が付きにくいかもしれません。ですが、決して深く考える必要はありません。下級の御家人たちは、本当にお米で給料をもらっていたのです。

また、旗本や少し位が高い人になると、お米そのものではなく知行地（土地）をもらうというパターンもありました。しかし、それは正確には「もらう」のではなく、「借りる」ということになります。幕府の天領と呼ばれる土地の中から田んぼを借りて、そこであがった税収をもらうわけです。このやり方だと計算上はお米を現物でもらう

よりも多めの収入を得られるのですが、災害や日照りのリスクもつきまとうので、どちらが良いとも言いきれません。

では実際の給料はどれくらいだったのでしょうか。徳川幕府の御徒、つまり平社員は一律に決まっていた「七十俵五人扶持」。

「五人扶持」のことを「扶持米」といい、五人家族が食べていけるお米のことを意味しています。これは毎月支給され、その基準は成人男子一人につき「一日五合」と定められていました。そして「七十俵」というのは、「お切り米」といって、徳川幕府の場合だと年間3回、3月と8月と11月に分けて支給されました。

これを聞いて何かを思い出しませんか。月給とボーナスによく似ているのです。私たちは月給もボーナスも、生活給としてもらっていますが、本来、ボーナスというのは直訳すれば「賞与」で、つまり「会社の業績がこれだけ上がったから、あなたにこれだけ特別なお金をあげましょう」ということになります。ところが日本の場合はどう考え

ても生活給です。その証拠に、ローンを組むとボーナス月には多めに返済したりする仕組みがあります。まさに、日本においては「ボーナスは必ず出るものだ」という社会の規定があることを示していると言えるでしょう。

そもそも、給与をお金で支払うようになったのは明治時代になってからです。その時にそれまでと同じ給料体系、つまり江戸時代の給与体系が採用されたのです。私たちの生活の中には今も江戸時代のお米の経済学が残っているのです。

「おかわり」と言ってみよう

江戸時代、お米は都市部に集中していました。江戸や大阪はまさにお米だらけだったと言えるでしょう。そのため、江戸の市民は麦や雑穀などを食べず、「江戸病」つまり「脚気」にかかることが多かったそうです。脚気はビタミンB1の不足が原因となりますが、重篤になると心臓発作につながるとも怖い病気であり、江戸時代以降も長らく日本人を苦しめました。

しかし、だからといって、お米が悪者かといえれば決してそうではないと思います。最近では脚気が問題視されることはありませんが、その代わりにお米を食べると太るなど「お米悪もの説」が蔓延するようになりました。でも、それは一概にお米のせいとは言えません。実際には私たちが動かなくなったというのが一番の原因でしょう。車や電車で移動するばかりで、ほとんど歩いたり、運動したりすることがないわけですから。そもそも、私たちのご先祖は江戸時代に限らず、弥生時代からお米を経済の基盤として社会を成立させてきました。お米がなければ、今の私たちの社会は存在しえないといっても過言ではないでしょう。

そういったこともあって、私は食生活の中からお米を排除するとなったら、実は自分個人だけではない、もっと重大な被害が生まれてくるような気がするのです。ですから、今夜はお米に思いを馳せながら、大きな声で「おかわり！」と言ってみてください。

第1分科会レポート

中間層の本音とどう向き合うか

第1分科会では、東京大学大学院法学政治学研究科・法学部 教授で、政府税制調査会 会長を務める中里 実氏に、世界的に中間層が困窮へ向かう中、その本音とどう向き合うかについて語っていただきました。

講演者



中里 実氏

なかざと・みのる
東京大学大学院 法学政治学
研究科・法学部 教授
政府税制調査会 会長

1954年7月埼玉県生まれ。78年3月、東京大学法学部卒業後、東京大学法学部 助手(指導教授、金子宏名誉教授)。その後、一橋大学 助教授、東京大学 助教授を経て、97年1月より、東京大学大学院法学政治学研究科 教授。現在に至る。2004年8月から05年3月まで、ハーバード・ロースクール客員教授を務める。また、1991年から2012年まで政府税制調査会の専門委員、特別委員、専門家委員会委員を歴任。現在は12年10月より租税法学会 理事長、13年6月より政府税制調査会 会長(16年9月、再任)、14年3月よりハーバード・ロースクール日本同窓会 会長、15年4月より関税等不服審査会 会長を務める。専門は租税法(特にデリバティブ等の金融取引の国際課税)、財政法、法と経済学。著書に『国際取引と課税』『金融取引と課税』『タックスシェルター』(有斐閣)、『Japanese Law: An Economic Approach』(University of Chicago Press, Harvard Law School of the Mark Ramseyerと共著)、『租税法と市場』(金子宏、マーク・ラムザイヤーと共編著、有斐閣)、等。

若者が希望を持てる社会に

現代は、なにかと本音を語りにくい時代です。それは政治家や有名人だけでなく、一般の方々も例外ではありません。そのような中で、人口の多い中間層の本音をどうすくひ上げて、それを適正なたちで政治過程や制度改革にどう役立てていくか。それが、政治に関わる方々の腕の見せどころであり、重要な課題ではないでしょうか。

世界的に見て、現在は中間層

没落の時代と言えます。日本やアメリカ、ヨーロッパの先進国では格差が拡大し続け、一部の富裕層に富が集中し、これまで先進国の経済やシステムを支えてきた分厚い中間層が困窮し始めている。すべての出発点は1989年のベルリンの壁崩壊まで遡ります。崩壊後、社会主義の壁の中に閉じこもっていた中国やロシアがグローバル市場に進出したことで、先進国の富がスライドするようになり中国やロシアが

豊かになりました。中国やロシアやインドをはじめとする国々に先進国から製造業の生産拠点が移ったことで、欧米や日本の中間層が打撃を受けました。「海外に生産拠点を移す」というのは、いわば「失業を輸入する」ということです。国内の雇用が減り、賃金が下がり、日本でも、失業とはいかないうちでも非正規雇用が増えました。特に若い人の非正規雇用が増加しましたが、これから日本を支える世代が将来に対して希望を抱けない、というのでは若い世代が気の毒です。私を含めて、一定の年齢以上の世代は、貧しかった時代の日本を知っています。その時代に私たちが打ちひしがれて暗い気持ちだったかという、決してそんなことはありません。むしろ希望に溢れていました。それは、仕事について頑張れば、それなりの生活ができるし、結婚して、小さいながらも家も持つという将来展望があったからです。だから貧しくても明るくいられたわけです。ところが、今の若い人にはこの展望がなくなりつつあります。この方々の

気持ちはどうやってくみとるかが、今後の政治の一番の課題ではないかと思っています。

中間層の本音を政治に反映

昨年行われたアメリカ大統領選も、「中間層の本音」が勝敗に大きく作用したと思います。

2015年の12月、私はアメリカのウィスコンシン州に10日間ほど滞在しました。実は高校生時代のときに一年間ほど交換留学をした経験があつて、その際、お世話になったホストファミリーを訪ねたのです。ちょうどその頃は、翌年に大統領選を控えていた時期だったので、現地のさまざまな人たちに誰が勝つと思うか聞いてみました。日本ではヒラリー氏が当選と言われているという、その人たちは「信用できない」などと批判したのです。中西部の方々の東部エリートへの反感を感じました。ご存じの通り、大統領選ではトランプ氏が勝ちました。その理由は、私はヒラリー氏の「きれいごとを言う進歩主義の東部エリート」という立ち位置が、中間層に受け入れられなかったから

ではないかと思っています。つまり「私は移民を受け入れて、貧しい人の味方をします」と言っても、実際には彼女がお金を出すわけではありません。結局のところ、中間層が納めた税金を貧困層に分配するのですから、「人のお金でいい顔をする」ことに對する違和感というのが中間層の本音だったと思います。そういった考えは、アメリカほどの大国の中間層にとつて、「さみしい考えだ」ということは分かっているはずですが、しかし、さみしい考えを持たざるを得ないほど、アメリカの中間層は経済的に追い込まれていたのでした。ヒラリー氏が中間層の本音を聞き取れなかったのに対して、一方のトランプ氏は、そのことがよく分かっていたのではないのでしょうか。今、ヨーロッパでは、移民の受け入れが大きな問題になっています。各国さまざまな立場があるかと思いますが、いずれにしても政治家は、自分たちの足元が脅かされている中間層の方々の本音を知った上で、経済問題と向き合っていく必要があるのではないのでしょうか。

第2分科会レポート

越乃寒梅「伝統の継承」 「挑戦」「おもてなし」

第2分科会では、「越乃寒梅」の蔵元として知られる石本酒造(株)で杜氏を務める竹内 伸一氏に、同社のこれまでの歩みと酒造りへのこだわりについて語っていただきました。

講演者



竹内 伸一 氏

たけうち しんいち
石本酒造株式会社
取締役・杜氏

1965年群馬県生まれ。東京農業大学醸造学科を卒業し、88年4月1日以来、石本酒造に勤続29年。同社の杜氏として、正社員18名と季節従業員11名、合計29名の蔵人の長として越乃寒梅の味を守る。新潟県の醸造技術伝承を目的として設立された「新潟清酒学校」では自らも卒業生であるだけでなく、講師・教務主任を務め、新潟清酒の継承と発展に尽力する。現在は酒造りのみならず、定期的に国内外で顧客との交流、酒造好適米の生産者とも積極的に交流し、活躍の場を広げる。趣味は晩酌とボランティア。

「淡麗辛口」にこだわる

私たち石本酒造(株)は、新潟市の亀田郷地域で、1907年から日本酒「越乃寒梅」を製造しています。亀田郷は江戸時代から梅の名産地として知られ、初春の残雪が残る中、寒さに絶え、凛とした花を咲かせる梅の畑が広がります。この美しい光景が「越乃寒梅」の名前の由来です。

また亀田郷は、阿賀野川と信濃川という二つの大きな川に囲まれた地域で、「良水」とともに酒造りには欠かせない「冬の寒冷な気候」にも恵まれた、まさに酒造りの好適地です。この地で創業当初から、地元の人と喜んでもらえる酒を造りたい、と丁寧な酒造りにこだわってきました。戦前、戦後の物価統制の時代には、酒造りに使う米の量が制限され、精米歩合も87%と法律で定められていましたが、玄米を13%削っただけではおいしいお酒は造れません。そこで、「職人が精米中に居眠りをして、60%まで精米してしまっただけ」と

言い訳をしても米を磨き、中心の良質な部分を使って、うまい酒を造ることに邁進しました。日本酒の消費量は、昭和40年代後半にピークを迎えます。「造れば売れる」といわれた時代で、醗にアルコールや糖類を加えて増量した、いわゆる「三増酒」も多く出回りました。甘口が好まれた時代でもありました。が、それでも弊社は「後味のきれいな淡麗な酒」にこだわってお酒を造り続けてきました。

現代は、さまざまな料理が食べられる時代です。飲みやすく、味にクセのない越乃寒梅を選んでいただければ、和食はもちろん肉料理やエスニック料理など、あらゆる料理を最後まで楽しんでいただけます。しかし、淡麗なお酒というのは、「甘さ」でごまかすことができないため、実は造り手の腕が試されるお酒です。高品質のお米を一粒一粒、丁寧に精米しなければ美味しいお酒はできません。そのために弊社は、高品質の酒造好適米を全量使用して、自社精米しています。酒造好適米は「酒米」とも言われ、酒造りのための特別なお

米です。ふだん私たちが食べる主食用のお米よりも一回り大きく、主食用の玄米が1000粒で22〜23gほどなのに対して、酒米は26g以上。有名な品種として、越乃寒梅の仕込みにも使用されている山田錦や五百万石などがありますが、弊社は産地にまでこだわってこれらのお米を選んでいます。

また、グレードの高いお酒で、精米歩合60%・60%より磨いた「のお米を使う吟醸酒というものもありますが、弊社は並段飲み用のお酒でも、精米歩合58%の米を使い、吟醸造りを行っています。

蔵人とともに 酒米の栽培にチャレンジ

弊社の新たな挑戦の一つとして、2015年から酒米の栽培に蔵人と取り組み始めました。実は亀田郷地域では、新潟で多く作付けされている酒米であるにもかかわらず、五百万石が生産されていませんでした。そこで弊社の冬季従業員である農家が中心となって、県やJAに協力してもらいながら生産に乗り出したのです。試行錯誤しながら収穫までこぎつけ、昨年そのお

米で造った「越乃寒梅 普通酒 大江山産2016」を販売することができました。大変好評をいただいて、今年9月にも特別本醸造として販売しましたが2カ月ほど売り切れに。やはり地元の米で造ったお酒には愛着がわきます。今後も継続して、より良いお米がつけられるように努力していきたいと思っています。

もう一つ、昨年は「灑」というお酒を発売しました。45年ぶりの新商品で、とてもライトな飲み口でありながら、しっかりと米の旨味が感じられる純米吟醸酒です。ぜひお料理と一緒に楽しみたいと思います。

さらに酒造り以外の取り組みとして、弊社は新潟市内の小学校での発酵食品に関する授業、地元メーカー「亀田製菓」とのコラボ商品の開発なども行い、地元の「食」の魅力の発信にも力を入れています。新潟市中央区東堀ビルでは、アンテナショップ、割烹料理店「きた山」、フランス料理店「越乃寒梅 Mania」を展開し、日本酒の新しい飲み方も提案しています。ぜひ一度ご利用いただければ幸いです。

第3分科会レポート

「新潟から世界を拓く

～前島 密・大倉 喜八郎・南場 智子氏～」

第3分科会では(株)新潟放送代表取締役会長の竹石 松次氏に、同社制作の『にいがた偉人伝』という番組で紹介した新潟の偉人について語ってもらいました。

講演者



竹石 松次氏

たけいし・まつじ
株式会社新潟放送
代表取締役会長

1943年新潟県生まれ。66年に法政大学社会学部社会学科を卒業し、67年に(株)新潟放送入社。2007年6月に代表取締役社長、17年6月に代表取締役会長に就任。主な公職として、新潟県特別職報酬等審議会 委員、新潟経済同友会 副代表幹事、法政大学評議員、学校法人北越高等学校理事長を務める。主な著書に『JR東日本新潟支社出発進行』『誇りたかき新潟の52人』(ともに新潟日報事業社)。

日本郵便の父、前島密

新潟放送では、1年にわたって新潟ゆかりの50人の偉人をテレビとラジオの両方で紹介する『にいがた偉人伝』という番組を制作しました。今日は番組の映像もご覧いただきながら、その中から、3人の偉人をご紹介します。

1835年、現在の上越市に生まれた前島密氏が江戸に行こうと決心したのは12歳の時のこと。その決意を母親に打ち明けたところ、「お前がそんなに望むなら行きなさい。ただし、(新

潟へ)戻って来てはいけない」と言い渡されたそうです。

上京後、密氏の将来を決定づけたのは、1853年のペリー来航でした。折衝役である浦賀奉行の給仕役として随行した密氏は、時代の急激な流れを感じ、日本諸国を旅することに。北海道の函館で航海術を学んだり、長崎で英語を修め英語教師として薩摩へ赴任するなど、あらゆる経験を積んだ後に江戸に戻り、幕臣であった前島家の養子となります。そして1868年、江戸幕府は崩壊し、徳川治世

260年に終止符が打たれました。密氏は新政府の、いわゆる郵政次官に就任し、それまで主流だった飛脚便に代わって「郵便」という新しい制度の創設に尽力することになります。その後も、幕臣の後ろ盾であった大久保利通の暗殺、自由民権運動、大隈重信が結成した立憲改進党への参加など、大きな時代の波の中で、密氏は郵政事業、電話事業の生みの親、育ての親としてその一生を捧げました。

命を賭す商人魂、大倉喜八郎

1837年に生まれた大倉喜八郎氏は、18歳で上京。鯉節問屋で3年修業し乾物屋として独立し、29歳の時に神田で鉄砲店を開業します。時を同じくして戊辰戦争が始まり、喜八郎氏は横浜の外国人商人から購入した鉄砲を、官軍に用立てていました。ある日、喜八郎氏は官軍に鉄砲を売ったことで彰義隊に連行されます。殺気立った空気の中、喜八郎氏は「商人にとりましては商売が命。お金を払って頂ける方がお客さままでございます」と述べたそうです。

命を賭して商売に情熱を傾ける喜八郎氏は、36歳になった1872年、欧州視察の旅に出ます。その時に喜八郎が得た実感は「これからは政府と行動を共にしなければビジネスは成り立たない」ということでした。以来、さらに交遊関係を広げ、多様なビジネスを展開していきました。現に92歳で生涯を閉じるまでに、大成建設、大倉商事、帝国ホテル、日清製油、帝国劇場といった数々の企業の礎を築き、国の将来を担う若者を育てるため、現在の東京経済大学を設立しました。東京経済大学の村上勝彦名誉教授は、その生き方を「パイオニア・洞察力・冒険心」という3つの言葉で言い表しています。

球界初女性オーナー、南場智子

南場智子氏の父上は非常に厳しく、東京への進学は大反対だったそうですが、南場氏は必死の覚悟で自らの意志を貫き、津田塾大学へ進学しました。それでも毎日実家からの電話は鳴り止みません。南場氏はそんな生活から抜け出すため海外留学を目指して猛勉強し、晴れてアメ

リカへの留学を果たしました。

大学卒業後、南場氏はマッキンゼーに就職しますが、MBA取得のために再びアメリカへ留学、その後、再びマッキンゼーに入社し、34歳で日本支社のパートナー(役員)に抜擢されます。そして1999年にインターネットオークションのサービスを展開する(株)ディー・エヌ・エーを設立しました。しかし、当時のインターネットサービスはまだ未成熟な状況で不具合が続出、会社が軌道に乗るまでは4年を要したといえます。そして南場氏は2011年に、ご病気であるご主人の看病のために代表取締役を退きましたが、2015年、横浜DeNAベイスターズのオーナーに就任。南場氏がオーナーに就任したことで、出身地である新潟で毎年公式戦を行うことになりました。初の女性オーナーに就任されたことは、私ども同郷の人間としても嬉しいことです。新潟を含め、全国のあらゆる地域で活躍されている方は大勢います。その方々にこれからも、光を当てていきたいと思っています。

懇親ゴルフ大会

参加者 88 名

11月10日、これまでに日本女子オープンゴルフ選手権競技、ダンロップレディスオープン、関東オープンゴルフ選手権などの会場となった「フォレストカントリー倶楽部」で、総勢88名が参加し、懇親ゴルフ大会が開催されました。同倶楽部は美しいアンジュレーションの恵まれた森と泉の36ホールです。また、グリーンは雨や暑さにも最高のコンディションを保つことのできる川砂のみで構成されたベントグリーンで、秋空の下、皆様気持ちよくプレーされました。

大会の結果は表の通りになりました。表彰式は、竹内健康委員の司会でスタート。今井彰大会実行委員長の開会挨拶の後、関東信越会の増田正廣会長、畔上洋副会長、そしてMJSの笠井健二常務執行役員（ミロク賞のみ）がプレゼンターとなり賞品授与が行われました。単位会、個人優勝者からスピーチをいただきました。

【個人成績】

順位	氏名	グロス	HDCP	ネット
1位	平間 克己(中部会)	87	17.6	69.4
2位	岡崎 克郎(北陸会)	91	20.8	70.2
3位	松丸 隆一(東京会)	99	27.2	71.8
4位	竹村 達也(東北会)	96	24.0	72.0
5位	赤石 雅英(東北会)	88	16.0	72.0
6位	太田 一司(四国会)	93	20.8	72.2
7位	乾 伸行(四国会)	82	9.6	72.4
8位	蘆田 裕三(近畿会)	98	25.6	72.4
9位	上田 滋之(関東信越会)	92	19.2	72.8
10位	森内 昭男(四国会)	91	17.6	73.4

【単位会対抗戦】

順位	単位会	ネット計	順位	単位会	ネット計
1位	東北会	217.6	6位	北陸会	224.4
2位	四国会	218.0	7位	東京会	231.0
3位	中部会	218.2	8位	沖縄会	231.8
4位	関東信越会	220.0	9位	九州会	235.2
5位	近畿会	222.0	10位	中国会	242.2



1.気持ちのよい秋空の下でのプレー 2.単位会優勝を果たした東北会の先生方 3.個人優勝を果たした平間 克己先生(左)とプレゼンターの増田 正廣先生 4.表彰式の様子

記念旅行

参加者... 2泊3日コース 59 名 / 日帰りコース 31 名

●2泊3日コース
今回の記念旅行では、新潟、群馬、栃木を3日間かけて巡るコースと、日帰りコースの2つのプランをご用意しました。

2泊3日コースの初日は、佐渡島がメイン。ジェットfoilで島へ渡り、美しい海岸線の尖閣湾をはじめ、北沢浮遊選鉱場、史跡佐渡金山といったスポットを巡り、また山下清画伯記念碑周辺にて朱鷺を觀賞しました。

2日目はまず宝石錦鯉発祥の地である小千谷に向かい、立派な錦鯉を觀賞いただきました。その後、吹割の滝、戦場ヶ原、華厳の滝といった自然が織りなす絶景を巡りました。

最終日は、世界遺産の日光東照宮、富岡製糸場を訪れるコースです。それぞれをじっくりご覧いただき、全ての行程を終えました。

●日帰りコース
こちらのプランでは、最初に新潟屈指のパワースポット彌彦神社を訪問しました。続いて匠の技が見られる諏訪田オープンファクトリー、越後の豪農の生活を感じられる北方文化博物館を見学し、散会となりました。

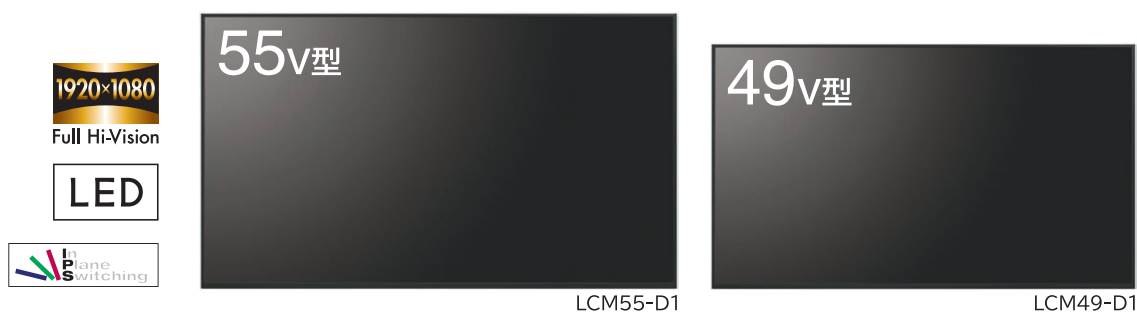


1.尖閣湾の美しい眺め 2.鉱処理で「東洋一」とも謳われていた北沢浮遊選鉱場 3.錦鯉觀賞をお楽しみいただきました 4.大迫力の吹割の滝 5.日光東照宮の陽明門 6.富岡製糸場の観光の様子 7.彌彦神社は全国的にも知られるパワースポット 8.北方文化博物館の美しい庭園

HITACHI
Inspire the Next

日立インフォメーションディスプレイ

～会議から研修・イベント、オフィス内への情報伝達用途まで
幅広く使用できるスリムデザインディスプレイ～



低消費電力設計

エッジ型LEDバックライト/ファンレス設計により
消費電力49V型=86W/55V型=100Wを実現。

スリムデザイン

奥行59mmの薄型設計。
縦置き横置きどちらもスタイリッシュに設置可能。

広視野角178度IPS液晶パネル

上下左右から見ても、明るく色鮮やか。

スピーカー内蔵

視覚+聴覚への訴求が可能。

5年目までの延長保証※1付き

延長保証により、安心してご使用いただけます。

24時間稼働

業務用途を考慮した長時間運用設計。※2



会議の情報共有に



研修会でのプレゼンに



社内の情報伝達に

※1 設置条件により有償修理となることがあります。また、製品出荷日換算2年目から5年目までの無償修理料金の累積金額(税込)には適用限度額があります。 ※2 24時間稼働する場合は、バックライトの設定は初期値でご使用ください。○写真はイメージです。

 **日立コンシューマ・マーケティング株式会社**

〒105-8413 東京都港区西新橋2-15-12 日立愛宕別館8F

<http://www.hitachi-cm.com/>